

## 資料2

## 令和元年度 碧南市住生活基本計画策定委員会 主な意見と回答

●策定委員会		
	主な意見	回答
第1回 R10823	全国計画の令和3年3月に改訂予定。議事録など動向を確認すること。	国の議事録を確認して進めてまいります。
	空き家や空き地など統計の数値以外に実数があれば提示を。	提示します。
	H27から令和元年で人口増加、分譲住宅の供給量が2倍になっている。要因は。	外国人の増加、建売分譲の開発が増えている。
	分析結果をどう読み取るかを整理すること。地区別の検討を。	データによる傾向をまとめます。地区別での検討します。
	防災（水害）、空き家、狭あいに関する意見が多かった。	検討してまいります。
	耐震化データで耐震性を満たす住宅が多いのでは。	推計値によるものと非木造も含まれている。
第2回 R11122	賃貸用の住宅が減ってその他空き家が空き家は減少傾向と考える方がいい。	その他の空き家は増加傾向にある旨をまとめます。
	16ページ図3-22の都市再生機構について平成20年以降は無くなっているのか。	碧南市から無くなったのか。全体的になくなったのか確認します。 →碧南市から無くなっていました。
	空き家数について、住宅土地統計調査と碧南市資料と差について、市は何を調査対象としたのか、はっきりさせるべき。	空家調査の概要を載せて対応します。
	持ち家で高齢者単独世帯は空き家予備軍と言われているが、空き家予備軍の数字を押えておくといいのではないか。	H30.6策定の空家等対策計画P12によると、高齢者単独世帯はH22で約1,500人だったものが、H27で2,000人と急増している。
	民間借家に住むことは、定住する人が減っているという見方もできる。この数字は良く見ておく必要がある。	民間借家の数値の増加は、移住できる数として認識します。
	外国人の事など、意向調査方法など少し抜けがあると思うので、その辺りを埋める努力をお願いします。	地域協働課、市民課に外国人の悩みや生活相談などを確認します。 →総務省のデータで困っている点のデータあり。 庁内の外国人関係相談窓口にて聞き取りして傾向を追記します。

34ページ現行計画の検証で、グループホームから下の文章について高齢介護課と擦り合わせを。	障害者対応のグループホームのデータで検証しておりました。高齢者対応のグループホームなどの施設について別途まとめます。
民間住宅の耐震化率について、木造とそれ以外を分けてほしい。木造だけだと90%には到底達しないはず。木造件数を追加してほしい。	木造データの追記について検討します。記載されている耐震化率は推計値です。来年度が耐震改修促進計画の改定時期であり、そこで掲載するデータは検討します。
33ページ成果指標値（耐震診断等対象者へ個別訪問）の実績について、23地区の中の1地区が伏見屋地区で4.3%、685件とは。	実績について、地区での割合ではなく、対象戸数に対する訪問した戸数に修正します。
新たな成果目標について、何を実際に評価するかどうするか皆さんで議論が必要。	次の目標値をどうするか皆様と議論して進めます。例えば、防災対策は、耐震のみでなく火災や洪水の目標設定するなど。
住宅確保要配慮者、空き家対策、福祉、外国人などの計画は、建設部局だけでなく、他部局と連携しないと計画は実現できない。連携して計画や成果指標を検討すること。	委員会開催の前に福祉課等の他部局を入れた作業部会があり、より連携して進めてまいります。今日の意見をしっかり伝えて計画に反映していきます。

第3回

第4回

第5回